

IV-4

衣類の黒ずみ

衣替えをする時に、衣類が何となく黒ずんで見えませんか。衣類の黒ずみについて注目しました。

■黒ずみ発生のメカニズム

衣類の黒ずみの原因は、繊維に蓄積した皮脂汚れである場合が大半です。着用した衣類を洗濯しても落とし切れなかった皮脂汚れが、少しずつ積み重なり衣類の色が黒ずむことがあります。また、最近多く使われるようになった化学繊維にも原因があります。

○洗濯の課題

ふだん、洗う前の汚れた衣類を洗濯機で長く保管していませんか。洗濯後、中には水が残っています。その洗濯槽に汚れた衣類を入れて扉を閉じてしまうと、中は湿度が高い状態となり、汚れた衣類についた菌が汚れを栄養分にして分解しながら増えていきます。すると、菌が作る皮脂汚れの代謝物で、衣類が繊維の奥まで一層汚れることとなります。汚れた衣類は洗濯かごなどに入れて、洗濯まで風通しを良くして保管するか、または洗濯機の扉を閉じないようにすることも必要です。

ただし、小さな子どもがいる場合は、洗

濯機の扉を開けたままにしていると、中に入り込み、出られなくなる事故が起きてしまうので注意が必要です。

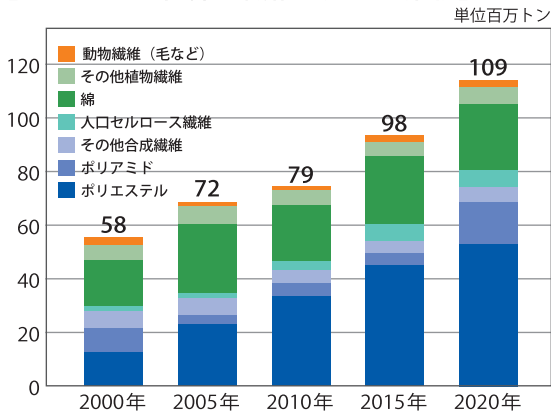
洗濯機で洗う衣類の量も重要です。衣類が多すぎて洗剤が行き渡らないと、汚れを水中へと引き剥すことができません。最近の洗濯機には衣類の重量を計るためのセンサーがついていますが、ついつい衣類を目いっぱい入れがちです。体重計を使い1回の洗濯物の重量の目安を確認しましょう。小分けして洗濯を行い、使う洗剤の量は洗濯物の重さに合わせて適量を測って入れましょう。

使う柔軟剤の量も原因となります。柔軟剤は衣類の風合いを整えるもので、そのため洗濯機では、洗剤で汚れを落とした後のすすぎの際に溶かしこんでいます。過剰に使うと必要以上に衣類に柔軟剤の成分が蓄積され、そこに皮脂汚れも残りやすくなり、落ちにくい黒ずみの原因となります。柔軟剤も洗濯物の重量に合わせて適量を使いましょう。

○繊維の課題

全世界で生産されている繊維の種類と量の推移(5年ごと)をグラフ1に示しました。2020年の生産量は109百万トンでした。

【グラフ1 全世界の繊維生産量の推移】



2000年以降の繊維生産量の推移を見ると、2000年の58百万トンから2010年は79百万トン、2015年は98百万トンとなり、継続して大きく増加しています。

また、繊維の種類については、植物繊維や動物繊維の生産量は大きく変化していませんが、化学繊維の生産量は大きく増えており、2000年との比較では、2020年に約2.5倍に増加しています。その中でも特にポリエステル繊維は、同じく2000年との比較で約4倍と大きく増加しています。

天然繊維である綿、麻、羊毛などについては、植物繊維は作付け面積、動物繊維も畜産面積が限られる中で生産量に限界があります。衣類の供給必要量を確保するために化学繊維の増産が必要な状況です。

肌に直接触れる肌着では、皮脂が付着しやすく皮脂汚れとして残りやすくなります。化学繊維は素材の化学的な特性から天然繊維に比べると油になじみやすい性質なので、綿素材の肌着よりも化学繊維の肌着では皮脂汚れが繊維に残りやすく黒ずみやすくなります。

■黒ずみを取り除くには

黒ずみは、落としきれず衣類に蓄積した皮脂汚れが大半です。黒ずみを取り除くには、必ず衣類の洗濯表示を確認する必要がありますが、洗剤の浸け置き(特にぬるま湯を使う方法)が役立ちます。また、漂白剤を利用することも有効です。もちろん繊維の種類や色、柄物かなどによって使える漂白剤を必ず確認してください。漂白剤には塩素系と酸素系があり、衣類の洗濯表示には使える漂白剤の種類も表示されています。

お気に入りの衣類を長く着るために、衣類の汚れをキチンと落として大切に扱いましょう。衣類も大事な資源です。

